キャラクター名
名護　守助（もりすけ）

プレイヤー名

シンドローム	ブラム＝ストーカー キュマイラ	ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
オプショナル	エグザイル	年齢	16	性別	男
覚醒	素体	衝動	嫌悪	初期侵食率	31 %
出自	有名人（34）	経験	純粋培養（80）	邂逅	主人（21）

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	4	1	3	2		10
感覚	2	0	0			2
精神	1	0	0			1
社会	1	0	0			1

HP	41
行動値	5
(非装備時)	5
戦闘移動	10
全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	4		知覚			意志			調達		
運転：[illegible]	4		芸術：			知識：			情報：UGN1	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
『キメラの本懐』		0				完全獣化＆破壊の爪　+9
『キメラの接吻』	白兵	10r+4	1	10		『キメラの本懐』+渇きの主　+4
『キメラの本気』	白兵	12r+6	1	10		『キメラの接吻』+鮮血+獣　+8

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ：ＵＧＮ幹部	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
お父さん	P　尽力	N　偏愛		
霧谷さん	P　尽力	N　憤懣		
お母さん	P 親近感	N　悔悟		
タイタス太郎	P　好意	N　嫉妬		
ナツキ	P　尊敬	N　憐憫		
端喰	P 親近感	N　食傷		
	P	N		

最大財産P:　2	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
コンセントレイト	2	2	メジャー		自身	自動		
効果：クリ値を下げる								
渇きの主	2	4	メジャー		自身	白兵		
効果：装甲無視、ＬＶ*4の回復								
完全獣化	2	6	マイナー		自身	自動		
効果：肉体系の判定ダイスに+「ＬＶ+2」する								
破壊の爪	2	3	マイナー		自身	自動		
効果：攻撃+「ＬＶ+8」、ガード1								
歪みの体	2	1	オート		自身	自動		
効果：ガード値を+「ＬＶ+3」								
鮮血の一撃	1	2	メジャー	武器	自身	白兵		
効果：白兵攻撃ダイス+「ＬＶ+1」								
獣の力	1	2	メジャー	武器	単体	白兵		
効果：白兵攻撃力+「ＬＶ*2」								
瀉血	1							
効果：美しい容姿と健康を保つ								
海の恩恵	1							
効果：水中でも陸上の様に動ける								
異形の歩み	1							
効果：どんな場所でも行ける								
効果：								
効果：								
効果：								

ＵＧＮの研究施設で生まれたオーヴァード。
アルビノの様な白い肌にルビーの様な赫い瞳をしている。

ＵＧＮの研究施設で行われた「育った素体同士を戦闘させ生き残りをＵＧＮチルドレンとして育てる」
という巫蠱（ふこ）様な計画に参加させられた。守助は最後まで生き残りＵＧＮチルドレンとして育ててもらった。
コードネームの由来は、この計画の終了した時に全身が凄まじく血濡れていた事から付けられた。

小学生高学年くらいに能力が暴走してお母さんを殺しており、唯一の肉親である、お父さんに異様なまでの愛着を持つ。
霧谷さんとは上司と部下の関係だが父親と接する時間を奪われていると内心憤慨している。
現在では高校生徒して生活している。

戦闘になると別人の様になる。

ロール例「お父さんは有名な研究者なんだよ！　すごいでしょう！？」

『僕は血を操る鬼であり、強大な力を持つ獣であり、不気味に体を変化させる追放者である。
どうせ、もう人間には戻る事は出来ないのならば愛する人間たちを守って死のう。理性無き怪物（ジャーム）を殺そう。
たとえ、怪物（オーヴァード）と言われ続けようとも、僕は能力を使い続ける。その為に力を与えられたのだと僕は信じている。
だから、戦おう、戦い続けよう、僕の体が理性無き怪物（ジャーム）共の血で真っ赤に染まり、理性無き怪物（ジャーム）の群れが滅ぶまで。
そう、僕こそがThe bloody bastard（血塗られた混血児）、その為に生まれて来た存在なのだから。』